

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400273
法人名	有限会社エル・シー・エヌ
事業所名	久万いこいの郷
所在地	上浮穴郡久万高原町入野1726番地5
自己評価作成日	平成24年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>自然の中で静かに季節を感じながら生活できます。入居費を低く設定して月々の負担費用を抑えています。地域的に家族が遠方の方、高齢者のご家族が多く松山市内の病院受診などいこいの郷で送迎し付き添っている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年9月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●事業所の開設後に、周辺には新しい住宅が数軒建ち、地区には若い人が増えている。お隣のうちの方とは、事業所玄関の出入り時にお会いすることもよくあり、あいさつされたり、避難訓練にも参加してくださっている。又、7月に行った夕涼み会は、ヨーヨー釣り等、子ども達も楽しめるよう企画して、近所に住む家族も参加してくださった。利用者は、子ども達が楽しむ姿をみて、とても喜ばれたようだ。近くにある中学校の生徒が職場体験に来られたり、又、利用者は運動会等を見学に行かれることもある。今月行われる地区の敬老会には、3名の利用者が参加する予定になっている。会場では、運営推進会議にも参加して下さっている地区の民生委員の方が、手招きして席まで案内して下さるようだ。 ●利用者の入浴の習慣や「日中に入るのは病院みたいな」と言われる利用者もあることから、事業所では、夕食後、だいたい19時～21時までの間に毎日3名ずつ、一人が週に2～3回程度、入浴できるよう支援されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

久万いこいの郷

(ユニット名)

グリ

記入者(管理者)

氏名

丸山昭仁

評価完了日

平成24年 8月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 地域に根ざしたを理念と行事などを踏まえた地域交流を実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 法人代表者は、『「い」いつも笑顔で「こ」行動はゆっくりと「い」一緒に楽しく』と理念を作り、玄関を入ったところに掲示されている。又、管理者は、ミーティング時に理念について話し、職員が理念に沿って日々のケアを振り返れるよう取り組まれている。法人代表者は、今後は、「職員は脇役」の、「利用者主体の個別ケアを目指していきたい」と話しておられた。今後さらに、職員がやりがいを持って、笑顔でケアを実践できるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 地域の組に入り、クリーン活動、懇親会などに積極的に参加している。</p> <p>(外部評価) 事業所の開設後に、周辺には新しい住宅が数軒建ち、地区には若い人が増えている。お隣のうちの方とは、事業所玄関の出入り時にお会いすることもよくあり、あいさつされたり、避難訓練にも参加して下さっている。又、7月に行った夕涼み会は、ヨーヨー釣り等、子ども達も楽しめるよう企画して、近所に住む家族も参加して下さった。利用者は、子ども達が楽しむ姿をみて、とても喜ばれたようだ。近くにある中学校の生徒が職場体験に来られたり、又、利用者は運動会等を見学に行かれることもある。今月行われる地区の敬老会には、3名の利用者が参加する予定になっている。会場では、運営推進会議にも参加して下さっている地区の民生委員の方が、手招きして席まで案内して下さるようだ。</p>	<p>事業所は、地域の中の「憩いの場となりたい」と考えておられ、中庭等も活用して、「地域の方が気軽に来てくれるよう工夫したい」と話しておられた。今後さらに、利用者の趣味や社会性等も活かして、地域と利用者をつなげるような取り組みにもチャレンジしていかれてほしい。又、運営推進会議等も活かして、いろいろな方と知り合ったり、関係を深めていかれてほしい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 今後の取り組みとして、施設の特性を活かした方法を考えている。例えば、認知症にかかる啓発活動、講習、施設のハード面の開放などを予定している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 施設の業務やスタッフにかかわるアンケートなどを実施し、推進会議での報告や改善のアドバイスなどを頂いている。</p> <p>(外部評価) 利用者や民生委員、介護相談員の方等にも参加いただきながら会議を行っておられる。会議では、「職員アンケートについて」「業務の仕分けについて」等、毎回、「検討議題」を決めて、事業所の取り組みを報告されたり、参加者から意見を聞いておられる。会議は、町役場の担当者の方には出席いただけるよう、平日の日中に行っておられるが、事業所では今後、「行事の日等、ご家族が来られるような時に開催したり、夜間や休日等に開催することも検討したい」と考えておられた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 主に運営推進会議などを利用しながら連携を図っているが、その他、電話やFAXを通じて迅速な協力関係を行っている。</p> <p>(外部評価) 町の担当者の方は、運営推進会議に出席していただき、運営やケアについて、細かく指導やアドバイスをして下さっている。介護相談員の訪問が月に2回あり、利用者とお話して、時には、排泄等についてアドバイス等をいただくこともある。事業所では、障害者の雇用も支援されており、職員は、事業所内の清掃等の仕事をされている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束に関する施設内研修を取り入れている。身体拘束は現在のところ無い。玄関については7:00～21:00の間は施錠せずに自由に行っている。</p> <p>(外部評価) 重要事項説明書には、「利用者の人権と権利」を明示されており、「暴力や虐待および身体拘束は行いません」と、利用者やご家族と約束をされている。居室にセンサーマットを設置している方もあり、利用者が動くと、台所で音が鳴るようになっている。又、各居室にはナースコールが設置されており、利用者は必要時にコールを鳴らして職員を呼ぶこともできる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ間で注意を払っている。スタッフ自身が自覚の無いまま行っていることも考えられるため。また、施設内研修の機会を持つようになっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 入居支援の段階で、関係者に対し権利擁護に関する制度及び成年後見制度について必要に応じて、説明や関係機関への連絡等の支援を行っている。現在2人の方が成年後見制度の利用をし、後見人の方も良好な連携が出来ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時の説明には十分な時間をとり、口頭にて文書説明を行っている。解約については、現在のところありません。改定については暫時、文書による郵送、電話等で対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月2回、外部の相談員が来所し、その時に入居者の方から状況を聞いて頂いている。 (外部評価) 入居契約時に、グループホームのサービスについて、ゆっくり時間をかけてご家族等に説明をされている。近くに住むご家族は毎日訪問してくださる方もある。又、町外、県外に住むご家族には、管理者が電話でよく連絡をされており、季節の変わり目には、衣替えをお願いする等して、事業所に足を運んでもらえるよう呼びかけておられる。毎月、事業所新聞を発行して行事等の報告をされたり、クリスマス会や夕涼み会等の案内もされている。ご家族に電話でご本人の状態を報告された際、胸元が汚れる場合があることを伝えたことがきっかけで、ご家族がタオルでエプロンを作って持って来てくださり、調査訪問時にも着けておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			職員に対して無記名アンケートを行い意見聴衆し、運営に反映するようにしている。	
			(外部評価)	
			冬場、積雪のため職員が自宅に帰れないような場合は、近くにある法人のマンションを使用できるようになっている。外出計画等、職員からの提案があった場合は、日勤職員を増やす等して出かけやすいような体制作りにも配慮されており、法人代表者は、「まずは試してみる」ことをすすめておられる。職員は、利用者の睡眠状況の把握に努められ、医師と相談しながら入眠剤を使用せず支援できるよう、ケア改善に取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			各自、係りを持つようにし、月1回進捗状況を報告してもらうようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			各棟のリーダーを設けており、スタッフの能力の把握をし、適宜必要な研修への働きかけをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			現在、具体的な取り組みは行っていない。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			業務の見直しも含め、なるべく入居者の方とのかかわりを持つように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居者と家族等の背景を重視し、入居された後もお互いの関係性が保たれるような配慮や協力をお願いしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			入居前の状況も含め、戸惑いのある入居当初時の状況は記録にも細かく記載し、落ち着いた生活を営めるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			入居者の心身の状態や性格、戸惑い、他の入居者との関係性も含めた各自の状況把握をし、アプローチをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			家族も知らないような生活の状況や、言動について、特に状態の悪いことのみでの報告にらず、ご本人のより良い生活状態を報告できるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			十分な対応は出来ていないが、要望があれば馴染みの場所や行事にお連れしている。直近では、地元の花火大会へお連れし、大変満足されていた。	
			(外部評価)	
			以前住んでいた町のスーパーに買い物に行かれることもある。若年の利用者は、日中、町の共同作業所に通っておられ、作業所の仕事仲間がお菓子を持って訪ねて来てくれたこともある。	事業所は、利用者主体の個別で細やかなケアを目指していきたいと考えておられる。今後さらに、利用者個々の「行ってみたい場所」「懐かしい人や場所」等を訪ねていけるよう支援されたり、入居してから築かれる人との関係についても大切に支援していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の性格や、認知状態によっては、入居者間の軋轢も起き易いため配慮しながら支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後は、主に介護施設への入所であったり、長期入院の場合が多いが、一度転院時の相談がありフォローを行ったことがある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) いつでもご本人の希望、要望をお聞きしたり、担当者制にして個別の対応に努めている。 (外部評価) 職員は、「ケース記録の仕方」について外部研修で勉強されて、日々の介護記録には、利用者が「できたこと」「よくなったこと」等、「よいこと」を記録できるよう取り組まれており、「ご家族がみるものとして記録する」ことを始めておられる。職員は、「利用者中心で物事を考え、取り組みをすすめていきたい」と話しておられた。	さらに利用者本位のケアに取り組むためにも、利用者一人ひとりの、「これまでのこと・現在のこと・これからのこと」の情報収集に取り組み、介護計画につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートにより状況の把握をしサービス担当者会において、1入居者に対し3ヶ月に1回を目処に検討を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 上記と同様に日課の把握もアセスメントや担当者等の意見を取り入れながらおこなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 開設当初よりサービス担当者会を毎月行っている。1入居者に対して3ヶ月に1回の頻度で計画の見直しをし、その都度アセスメント及び検討会を行っている。往診時の主治医の意見や後見人との協議なども随時行って、タイムリーなケアプランへの反映に努めている。</p> <p>(外部評価) 各ユニットで職員が集まり、サービス担当者会議を行い、利用者個々の困っていることや課題について職員の気付き等を話し合い、それらを踏まえて管理者や計画作成担当者が介護計画を作成されている。さらに、利用者が持っている力を活かして地域の中で生活を広げていけるような支援が実践できるよう、介護計画の内容についても工夫されてみてはどうか。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 今年度に入り介護記録の研修会に参加し、記入方法について勉強をしながら、実践で変更を試みているところである。より経過の把握がし易く、統一して介護、援助が出来るように努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 菜園や花卉作りに取り組み苗植え、育成、収穫とその時々に応じて入居者の方と共同作業を行っている。今後はその状況などをホームページへアップし面会に来ることが難しい遠距離のご家族へ、近況報告を兼ねた活動を考えている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域資源の把握には努めている。現在、その利用はないが、必要に応じて活用していく予定である。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の変更も含め柔軟な対応をしている。専門性の高い医療を受ける必要があれば、紹介をして頂き受診している。現在、皮膚科、眼科については専門医へ受診している方がいる。	
			(外部評価) 利用者それぞれのかかりつけ医に診てもらえるよう支援されている。事業所では、日々のバイタルチェック・受診、往診、服薬や排泄、入浴等、全体が把握できるよう「健康チェック表」の様式を新しく作っておられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週1回看護師による健康チェックを行っている。その時にも入居者の状況について相談し対処しているが、時間外についても電話により連絡をとって指示を受けるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) ご家族に代わって、入院者の洗濯物や、買い物、入院物品の準備などは行っている。(県外のご家族も多いため)その為、面会時に看護師へ状況をうかがったり、必要に応じて医師とも連絡をとったりしている。退院の担当窓口の方とは懇意にしており、情報交換は行いやすい関係は出来ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在、終末期ケアは行えていないが、今後の状態変化が見込まれる方のご家族に対しては、早い段階での相談を行っている。	
			(外部評価) 入居契約時には、「看とりに関する指針」をご家族に説明して、事業所の医療連携体制を理解していただき、又、看とり支援時には、「毎日ご家族に来訪していただきたい」ことを伝え、支援の希望についてお聞きしている。職員は、町主催の「地域ケア会議」で行われた町外の他事業所の看とりの事例を交えた講話を聞き、「事業所でも利用者を最期まで支援したい」という気持ちを持った方も複数ある。事業所では、「将来的には利用者の看とりを支援したい」と思っておられ、今後は、利用者やご家族の看とり支援についての希望や心配ごとを聞き取るような機会作りや、事業所の力量や体制作りの取り組みをすすめていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応については周知をしている。その状況になった場合の対応、連絡などはマニュアル、連絡網も準備し実践に即している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災、地震災害等に対しては年2回の訓練を行い、人命救助を第1とした訓練、避難体制を重視した内容となっている。	
			(外部評価) 消防署の協力を得て、避難訓練や水消火器を使った消火訓練を行われたり、AED(自動体外式除細動器)の使用方法等の救急救命法の講習を受けておられる。事業所は、地盤の固い場所に建てた事業所で、建物に耐震性もあるとのことから、組の集まりの際には、代表者や管理者が、「災害時等には、事業所を避難場所として利用してほしい」と地域の方々に話しておられる。さらに、いざという時のために担架等も用意されている。今月下旬には地震を想定した避難訓練を利用者とともにを行うことを予定されていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 特に排泄に関することや、病気のことについては、気をつけるようにしている。	
			(外部評価) 法人では、職員にアンケートを取り、「介護とは何か」「職員にとって必要なことは何か」等、ケア等についての意識調査をされ、「私語の禁止」「利用者への対応」「職員の研修受講」「会議の出席」「役割分担」について取り決めを作られた。台所には、「私語禁止」と貼り紙をされていた。事業所の勉強会時、管理者は、職員の利用者への対応について事例を挙げ、みなで話し合う機会を作っておられ、職員が日々のケアを振り返ったり、気付くことができるように取り組まれている。調査訪問時には、食事介助やパット等の排泄用品の扱い等、プライバシーに配慮が必要と感じるような場面も見受けられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の生活ペースに合わせて、自己決定や希望が表出できるように環境を整えている。職員には聞く姿勢、要望に対して実行することの重要性を伝えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 今は、じっくりと腰をすえた介護というものを考えている。結果や成果を早く出したいと考えると、スタッフの都合で動いてしまいがちである。ある意味、辛抱強く入居者の方へアプローチをし続けることは大変ではあるが、根気をもって粘り強く、諦めず関わっていくことの大切さをスタッフが持てるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 特に女性の方については、年を重ねても、その欲求は残っており、その気持ちを持ち続けられるように、服装や化粧品、髪型などに気を配っている。必要な物品についてはその方にあった、道具や入浴用品も含めて対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) メニューについては、マンネリにならないように、旬の野菜や季節のメニューを考えている。味付け、下準備、後片付けは能力に応じて入居者をお願いしている。その他、最初は箸から使用中からスプーンに替えるなど残存能力の維持、キザミ、トロミ、骨抜き対応にしている。極力、お粥にしないようにしている。(あまり、好まれない為)また、順次、軟食から普通食へ戻るように努めている。 (外部評価) 食材は、週に2回スーパーに買い出しに利用者で行かれている。職員は、利用者のとなりに座り、一緒に同じものを食べておられた。利用者によっては、ごはんをおにぎりにして食べやすくされていた。又、利用者の中には、「堅いからね」と、白身フライを味噌汁に浸してから食べる方もみられた。中庭に出て、菜園でトウモロコシやナス等を探り、そこでバーベキューを楽しまれることもある。今後さらに、時には、普段の食事をご家族や外部の方も食べてみるような機会を作り、「食事を楽しむ」という観点から、感想をお聞きしたり、支援の工夫について話し合ってみてはどうだろうか。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分摂取は、その量や時間帯の把握をし、1日1リットル以上は摂取している。また、嚥下の難しい方については、トロミをつけたり、寒天などにしている。麦茶、コーヒー、紅茶については施設より提供し、入居者や家族より希望のある牛乳や栄養ドリンクなどは、自費購入ではあるがスタッフで買い出しをし切らさないようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 入れ歯の使用者については、口腔洗浄及び洗浄剤により清潔を保っている。1入居者については、毎食後に口腔ケアを行い麻痺側に残滓が無いようチェックをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>1入居者の全体像を把握した上で、その方に合った形を考えている。基本はトイレでの排泄だが、移動・立位保持・移乗の状態、下肢筋力・関節痛の状態、認知症による不穏症状、便秘・下痢症状等考慮し、日差変動を加味しながら、紙パンツまたは布パンツの使用、パットの使用・変更・中止、また夜間は安眠確保も含め、尿器、ポータブルトイレ、紙オムツ等も併用している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「健康チェック表」を用いて、利用者個々の排泄状況を記録して、水分摂取や入浴等も踏まえて、できるだけ薬を使わず排泄できるような支援を検討されている。職員が2名でトイレ内で介助する際には、空間の制限もあり、介助に不自由な面もあるようだが、利用者の持っている力を十分に活かしながら、今後も、利用者の立場に立った排泄支援の工夫を考えていかれてほしい。</p>	<p>事業所では、今後さらに、「利用者一人ひとりが気持ちよく排泄できるような支援に力を入れて取り組んでいきたい」と考えておられる。管理者は、排泄の支援には、「利用者と職員の信頼関係が大切」という考えのもと、まずは、「利用者への言葉かけ等が適切に行えるよう取り組みたい」と話しておられた。</p>
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>玄米やおカラなどの繊維質のもの取り入れたり、牛乳、冷水などを取りながら、なるべく自然排便ができるようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>希望や身体状態により昼間浴、夜間浴を行っている。また、便失禁時の臨時入浴、水虫の治療の足浴などしている。また病気による長期入浴不可の方は陰部洗浄、清拭も含めて行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の入浴の習慣や「日中に入るのは病院みたいな」と言われる利用者もことから、事業所では、夕食後、だいたい19時～21時までの間に毎日3名ずつ、一人が週に2～3回程度、入浴できるよう支援されている。皮膚に湿疹やかゆみのあるような方は、医師と相談して2日に1回入浴を支援されている。現在は、浴槽をまたぐことが難しい利用者は、シャワー浴となっている。脱衣所には、利用者個別にシャンプー等を用意されていた。さらに、職員の入浴介助等の技術アップや用具等を工夫して、利用者の希望や体調等もみながら、ゆっくり湯船で温まれるような支援にも工夫されてほしい。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>高齢の方については、日中定期的にベッドに横になって頂いたりしている。基本的にフロアで過ごすのも、居室で休むのも自由であるため、昼夜逆転にならない程度で対処している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 定期薬については、処方箋にて把握している。臨時薬については、袋に風邪薬等と記載している。誤薬が無いよう、曜日ごとに、朝昼夕と袋分けしている。また医師と相談し嚙下困難者への対応など、密に連絡をとっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 地域行事への参加や要望に応じて趣味活動、外出など、出来る限り対応している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) スタッフによる援助が多いが、外出(買い物、散歩、行事参加、外食、ショッピング)支援を行っている。 (外部評価) 外出の希望をあまり表わさないような利用者もあるようだが、飼い犬の散歩や食材の買い出しに誘ったり、時には、ドライブしたり、町内の喫茶店にお茶を飲みに出かけたりされている。さらに、利用者が、「散歩してみよう」と思えるような場面作りにも工夫されてほしい。外出支援は、ご家族が事業所に期待する支援でもあり、又、事業所でも個別支援を目指しておられることから、ご家族の要望等もお聞きして一緒に話し合いながら支援を工夫してみしてほしい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金額的には高額ではないが、ご本人が所持されている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自ら出来るようにしている。電話は居室にて掛けられるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ベランダや中庭も含め緑や花がある状態をつくっている。そこには犬も放し飼いにしており、入居者の中には特別な存在として可愛がられている。</p> <p>(外部評価) 居間の窓からは、山々の様子も見えて、季節の移り変わりが感じられる。夜間、中庭にタヌキの親子が顔を見せることもあるようだ。ベランダでは、コーギー犬の「太郎」を飼っておられ、ユニット同士で行き来できるようになっている。又、通学途中の子ども達が犬に声をかけてくれる。へちまのグリーンカーテンを作り、プランターの花の世話等をされる利用者もいる。居間の一角には、腰を降ろせる高さの畳のスペースがある。居間のテーブルは、3ヶ所に分かれており、中庭で採って来られたカヤツリグサを瓶に生けておられた。居間の壁には、手作りのリースや手芸作品等、お得意な方の作品を飾っておられる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 全室個室の造りになっているため、居室においてはプライベート空間が持てるようになっている。また気の合った入居者同士で行き来がある。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居時に馴染みの物を自由に持ち込み出来るようになっている。壁にも好きなものを貼っても良い為、活用されている。</p> <p>(外部評価) 居室の窓からは山や畑の緑が見え、自然の光が入り明るい。居室に、い草の敷物を敷いてこたつ机を置き、ビーズ小物や梱包テープで金魚を作ったり、広告等で手芸を楽しむ方がおられ、自室の窓から、道を歩く人の姿が見えると、声をかけてプレゼントされることもある。別ユニットの方から、しきびを分けてもらって、ご主人の写真に飾っておられる方もあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 廊下、居室スペースは広く取っているため行き来はし易い。手すりの設置はトイレ、廊下、浴室、フロアにある。</p>	